

福井県公共工事入札監視委員会の開催概要について

このことについて、令和7年度福井県公共工事入札監視委員会（第2回）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

記

1 日 時 令和8年1月28日（水） 9：30～11：00

2 場 所 県庁10階 審問廷

3 出席委員 荒井委員、樋尾委員、清水委員、三寺委員（五十音順）

4 議事次第

- 1) 開会
- 2) 議題
 - (1) 入札および契約に係る制度の運用について
 - ①入札・契約手続の運用状況
 - ②抽出事案審議
 - 3) その他
 - 4) 閉会

5 会議概要

- (1) —① 入札・契約手続の運用状況（令和7年4月1日～令和7年9月30日）
・契約件数、落札率の状況について説明
・指名停止の運用状況について説明
・総合評価落札方式の実施状況について説明

Q 働き方改革に伴う長時間労働の是正により、業務の進捗に支障が生じるとの声も聞くが、発注者である県として何か対策はしているか。

A 県では、原則完全週休二日で工事を発注する等の就労環境の改善を図りつつ、長時間労働を抑制するため、工期についても十分な期間を確保している。

Q （指名停止の運用状況一覧表について）今年度上半期と昨年度上半期を比較した場合の増減状況はどうか。

A 今年度上半期において指名停止措置を講じた者は12者であり、昨年度上半期の2者と比較し増加している。増加の要因として、特定建設工事共同企業体が実施した工事において、指名停止の対象となる行為が確認され、当該共同企業体とその構成員である4者に対して指名停止措置を講じたため、件数が増加した。

また、公正取引委員会が独占禁止法違反として公表したものが3者あり、増加の一因となっている。

Q （指名停止の運用状況一覧表について）県発注工事において、落札者となりながら契約締結を辞退したとあるが、辞退理由は何か。

A 入札金額を誤って入力したため、辞退したと聞いている。

(1) —② 抽出事案審議

ア 抽出事案1

Q 県が実施する高等学校の改修工事と、市が実施する中学校の改修工事が隣接して行われているが、両工事において情報共有や受注者間の連携を図りながら施工しているのか。

- A 県と市の担当職員および受注者間において定期的に会議を開催しているほか、必要に応じて情報共有を行い、連携を図りながら工事を進めている。
- Q 本工事では、同一地域で同規模の工事が複数施工中であることから、配置可能な技術者が不足し、結果として1者応札となったものと説明があったが、今後の入札において同様の状況が生じないための対策はあるか。
- A 県発注工事においては、可能な限り発注時期が重複しないよう努める。

イ 抽出事案2

- Q 入札方式を総合評価落札方式とした理由は何か。
- A 本工事は、慢性的な交通渋滞の緩和を図る目的として道路（バイパス）を新設する工事であり、比較的規模の大きな工事である。また、工事量も多いことから総合評価落札方式を採用した。

ウ 抽出事案3

- Q 総合評価落札方式で発注した本工事において、いずれも技術評価点の低い2者が辞退している。技術評価点は、入札前に公表しているか。
- A 公表していない。辞退した2者については、いずれも技術者の配置が困難となったため辞退したと聞いている。

エ 抽出事案4

- Q 本工事では、応札者数が23者と他工事と比べて多いので、平均応札者数を引き上げているのではないかと想定する。このことから、資料1「入札・契約手続の運用状況」の応札者数の状況について、平均応札者数だけでなく中央値も算出してはどうか。
- A 応札者数の中央値についても分析を行う。

オ 抽出事案5

- Q 航空レーザー測量について、これまでに発注実績はあるか。また、今後同様な測量業務の増加が見込まれるのか。
- A 本業務は、航空機（セスナ機）を用いて広域的に測量を行うものである。県では、令和4年度に南越前町で発生した土砂災害時にも同様の業務を発注した実績がある。近年は、広域測量において航空レーザー測量の活用が一般的となっている。
- また、県としてドローンの活用を推進していることから、今後はドローンを用いた測量も増加すると思われる。

- Q 本業務において、最低制限価格を下回った者が2者あったが、予定価格および最低制限価格の設定に問題はなかったか。
- A 予定価格については、複数者から見積もりを徴収して積算している。最低制限価格については、所定の算定方式に基づき機械的に算出して設定しており、問題はなかったと認識している。